

「世界にたったひとつの奈良」の実現に向けて
サラリーマン横井の活動をお伝えします

YOKOI Report

よこいレポート

奈良市議会議員の横井雄一でございます。
「サラリーマンが普通に政治に参画できる奈良」の実現を目指し、
小さなことから少しずつ、いつもみなさんの身近にいる
政治家として活動してまいります。



8年目活動中です!!

おすすめ、
行政改革!



よこいくん

みなさんの声を議会で質問しました

① 手話言語条例を一緒に作りましょう!

[28年12月議会]

横井の質問

手話言語条例づくりに向け、11月に、ろう者や手話関係者で意見交換会を実施していただいたが、今後はどう取り組むのか。

仲川市長の答え

ろう者や手話関係者などに有識者を交えて、幅広く議論し、共に作っていくというプロセスを大切にしていける。関係者の想いをひとつにした上で、奈良を訪れる人にも優しい手話言語条例にすべく進める。

＝ 奈良市の手話言語条例づくりを宣言されました! ＝

② 家庭ごみ収集業務の民間委託の妨害行為を許すな!

[28年12月議会]

横井の質問

環境部幹部と労働組合の幹部が勝手に「28年度は民間委託しない」という文書を取り交わしていたが、こんなことが許されるのか。

環境部長の答え

取り交わしていたことは事実だが、文書に効力はない。

さらに追及

今回のような市民から見えないところで大切なことが隠し曲げられてしまうことは断じていけない。環境部の服務規律を回復するべきでは。

仲川市長の答え

このような事態に至った原因を把握し、対処する。民間委託も早急に進める。



取組みの成果が出てきました!

交差点のカラー舗装化

平成28年6月議会で提起した「交差点のカラー舗装化」が一部実現しました。場所は県立高円高校北西の交差点で、以前から交通事故が多発していたところです。カラー舗装実施前と実施後の事故状況を中長期的に比較して効果を確かめたいと考えています。



県立高円高校交差点カラー舗装

ICT教育の環境づくりが進んでいます!

昨年、授業にタブレットを導入しているモデル校を視察し、議会でICT教育の推進を訴えてきました。29年度、1校につき1クラス分ではありませんが市立小中学校の全校にタブレットが配置され、無線ネットワークも整備されます。ICT教育の環境づくりが一步前進しました。

※ICT教育とは…ICT(情報通信機器)を駆使した教育。タブレット型パソコン等を授業に取り入れる教育のこと。

よこいくんの取組み

ふれあい大会参加

平成28年11月12日、第33回奈良市ふれあい大会が総合福祉センターで開かれました。障がい者の皆さんによるコンサートや模擬店がありにぎやかなイベントで毎年参加しています。今日は奈良市聴覚障害者協会さんが担う、ふるまい餅のお手伝いでした。田原伝統芸能保存会の皆さんや飛び入り参加の方による「干本つき」で突いたお餅を丸めてふるまいました。



2016年ふれあい大会

視察レポート「大阪市で実践! 幼児教育の無償化について」

平成29年1月、大阪市子ども青少年局を訪ね、全国に先駆けて実施されている、「幼児教育の無償化政策のしくみ」を学ぶことができました。幼児期の教育は生涯にわたる教育の基礎を形成するという、吉村大阪市長の強い思いで28年度から5歳児の無償化が実践されています。

特長は、サービスを受けるのに所得制限を設けていないこと、対象を認可保育所、市立・私立を問わず全幼稚園、児童発達支援事業所と広範囲であることです。

29年度は4歳児にも無償化の拡大、また、新しく認可外保育所に通うこどもも対象になるようです。大阪市は4万人超の幼児がこのサービスを受けることができます。

奈良市にも取り入れたい政策です。引き続き調査研究します!



高校、大学時代の同級生・田辺信広さん(大阪市長)と

出前トーク開催報告!

平成29年2月6日

平成29年2月6日、自動車販売、飲食店経営、電気店経営、福祉施設責任者、住宅外構設計者など幅広い職種の方と奈良市政について意見交換しました。

これまでの横井の取組みに対するご意見はもちろんのこと、「教育の無償化」、「シニア層活躍の場づくり」、「就学前障害児の教育」など今後取り組むべき具体的な政策も提言いただき充実した出前トークになりました。

みなさんのところへ、出かけて行きます!

政治のことをわかりやすくお話しします。それが、横井雄一の「出前トーク」です。



まずは、お電話ください!

横井雄一の電話番号

いこくわ よこいくん

090-1598-4519 まで

よこいゆういち 検索

③ 障害者差別解消法の周知は。

【28年12月 議会】



横井の質問

28年4月に法律ができた。市民への周知と「合理的配慮(※1)」の実績は。

※1 合理的配慮…実際に障害者に対する配慮が必要になった時に行われるもの。

※2 まちかどトーク…「奈良市まちかどトーク」という、市政のことを職員が出向いて説明する市民サービスのこと。

保健福祉部長の答え

まちかどトーク(※2)で出前講座を開くなど周知に努めている。法律ができてから、書類が見えにくいので文字の間隔をあけてほしい、ルビをふってほしい等の配慮の要望があり、対応している。

さらに要望

「バリアフリー」と「合理的配慮」の区別がつかない人は多い。法律の周知と「合理的配慮」の積み重ねをお願いしたい。

④ バンビーホーム。利用者の声をもっと聴いて!

【28年11月 観光文教委員会】



横井の質問

週に3回利用の人もおり、スポット利用を望む声も多い。利用料金を月額一定額ではなく、回数券制を取り入れては。

地域教育課長の答え

定期的に常時利用する児童を受け入れるため月額制としている。しかし、保護者の就労形態も多様化しているので、利用者ニーズの把握に努める。

さらに要望

非正規雇用が増えており、保護者の生活習慣や所得が変わってきている。「これまでのやり方があるから、新しいことはダメ」ではなく、現場の、地方の声を聴いて、奈良市から国のやり方を変えていく気概を持って仕事をしてほしい、と訴えました。

⑤ 通級指導教室。教師確保はできますか。

【28年11月 観光文教委員会】



横井の質問

担当教師が一人の教室がある。専門性が必要で急に代わりの人が担当できない。将来の後継者づくりはできるのか。

教育相談課長の答え

専門性を持った次世代の人材の育成が必要と考える。通級指導に関心を持ち、大学での研修を望む教員も出てきているので、関心を持って取り組む。

さらに要望

昨年文部科学省がまとめた「次世代の学校・指導体制実現構想」では、教員確保のため教職員定数を定める義務教育標準法の改正が盛り込まれている。これまで加配定数でしか配分されてこなかった、「通級指導」や「外国籍の子どもたちの日本語指導」、また「不登校・いじめ」等の担当教員が、今年度以降は基礎定数に組み込まれる。動向を注視し、いち早く奈良市に取り入れていただきたい、と訴えました。

⑥ 講師が増えているが学校教育の継承は大丈夫か。

【28年11月 観光文教委員会】



横井の質問

奈良市の小中学校。講師の比率が増え転勤の間隔も早い。学校特有の教育特色を継承することが難しくなるのでは。

奈良市立小中学校 講師の比率(全教員に占める講師の割合)

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
小学校	4.9%	6.2%	5.3%	7.8%	10.5%
中学校	11.5%	11.3%	11.7%	14.4%	16.0%

どんどん
増えてるけど
大丈夫?

学校教育課長の答え

校長が学校経営の方針やビジョンを策定して教職員、保護者、地域の皆さんと共有している。学校の良さや特色は継承できる。



7 新奈良町にぎわい構想は進んでいますか。

[28年11月 観光文教委員会]

横井の質問

奈良町の新しいまちづくり構想。以前議会が指摘した3つの点を反映して進めているのか。

1. 旧構想の検証をする。
2. 地域住民の声を反映する。
3. 奈良町に関する補助事業を見直す。

ならまちにぎわい課長の答え

5名の学識経験者等からなる懇話会を設置し、議会指摘の内容を踏まえ議論している。また、分科会を開いて地元住民の幅広い意見を取り入れて構想づくりをする。今後、構想の実現についても地元の皆様と進めていく。

奈良市新斎苑 建設事業について

平成28年12月議会で、奈良市新斎苑建設事業の関連予算を可決しました。

現在の火葬場は、施設が著しく老朽化しており、市民が望まれる火葬の申し込みに対し、火葬許容量が少ないため約7割しか受け入れることができません。さらに、現在の火葬場敷地は民間からの借地であり、平成33年3月末をもって地主に返還しなければならないことから、それまでに新しい斎苑(火葬場)を作る計画が奈良市から提案されていました。

私横井は採決時に賛成いたしました。(賛成20人・反対17人で可決)

現在地は借地であり、4年後地主に土地をお返し、現地での火葬業務は終了しなければならないことから、市民サービスの空白を作るわけにはいかないと判断しました。ただし、計画地での建設に反対されている方のご意見もお聞きしており、苦渋の決断でした。

8 偏った教員の配置を見直して!

[29年2月 観光文教委員会]

横井の質問

奈良市立の小中学校の教員配置。教員経験10年未満の先生が学校全体の80%を超えている学校がある。バランスが良くない。改めるべきでは。

教育委員会の答え

年齢構成のアンバランスがあることは認識している。奈良県教育委員会と調整し、適切な人事異動を行っていく。

さらに意見

若手・中堅・ベテラン、バランスよく配置すべき。今後、改善が見られない場合、どうやって配置が決まっていくのかという人事異動の過程にまで踏み込んで調査していく。

9 行政改革をこれからも続けて!

[29年3月 議会]

横井の質問

市民にとって必要な財源をつくるために、行政改革を進める手を緩めてはいけなと考えるが、市長の思いは。

仲川市長の答え

市長就任から8年間、民間委託導入で成果が出てきている。市の最高責任者として市民から預かった税金で最大限の効果をえられるよう改革に努める。

さらに要望

行政改革は、切る・削ることではなく、常に仕事を見直し常に税金の使い方を見直していく作業。市長の思いを支持する。